

韓国・ブندان日本語補習授業校 ニュースレター No.003

木々も色づき、秋が少しずつ深まっていくのを感じる今日この頃。
美しい空や自然の下、皆さんはどのような秋を過ごされますか。
第3号では、小学1年生の時から補習校に通い続けている、伊東さんに「補習校に通い始めて、5年目。今思うことは？」というテーマで寄稿して頂きました。伊東さんのお家は金浦空港近く。「雨ニモマケズ」の出だしのフレーズが頭をよぎる日も、これまで多くあったことと思います。ぜひ、お子さんと一緒に伊東さんの文章を読んでいただき、補習校がみんなにとっての「居場所」になればと願います。

わたしは伊東です。この補習校が始まった時に1年生で入学し、今5年生になりました。補習校に通い始めたきっかけは、母が泰子さん(*注:本校創立者の大皿泰子先生)が補習校を始めると聞いて、「遠いけど大丈夫かなあ。」と思いながら通い始めたと思ひながら聞きました。

補習校が今に至るまでに紆余曲折があったそうです。わたし自身も仲の良い友だちが補習校をやめたりしても通い続けて来られたのは、この補習校はわたしの居場所だ!と思えたからだだと思います。寒くなる冬は、まだ外が暗いうちに家を出発しなければなりません。補習校まで地下鉄を少なくとも2回乗り換えて1時間以上かかりますが、今では補習校に通っていない自分は想像できません。学校ではマイノリティーだけど、ここではわたしと同じような境遇の友だちがたくさんいる。それも通い続けられている理由です。皆さんも、ぜひ補習校で仲の良い友だちを作ってください。勉強が嫌だなあと思っても、とにかく通い続けて下さい。通い続けるうちに、あなたの「居場所」がここにできると思いますよ。



「補習校は私たちの居場所！」
入学式でお祝いの言葉を述べる5年生

この本、よんでみて!

第3回目は、読書嫌いの子どもも読める一冊です!
しまぐれロボット 星新一・作 和田誠・絵 (株)理論社
おすすめ2、3年生~大人まで。
星新一さんの卓越した発想と想像力、ユーモアが盛り込まれています。

ショートショート(短いお話を集めた本)で、読みやすいです。
ものごとを一つの方向だけではなく、ちがった見方をすること
を気づかせてくれたり、ハッと驚くラスト。読みはじめたら続きが読みたくなるので、読書嫌いの子にもぜひ一度読んでみてほしい一冊です。(H.Y)

2019.10.27発行